

【主な出来事】

- 最新の世論調査結果では、ドドン大統領とサンドゥ前首相に対する支持が拮抗。
- ドドン大統領は、欧州評議会議員会議に出席し、EUやルーマニアとの関係、トランスニストリア問題について現状を説明した。

1. 内政

▼キク首相、各市町村の市長らと会談

・22日、キク首相は、各市町村の市長らを集めた会合を開催し、地方行政との連携強化を訴えた。特に、道路の修復や上下水道の設置、ゴミ処理行政など2020年に政府が進めるインフラ・プロジェクトについて議論された。

▼世論調査結果

- ・22日、International Republican Institute(IRC)が行った世論調査結果が発表された。
- ・67%がモルドバは間違った方向に進んでいると回答。また、78%がモルドバはいくつかのグループの利益によって支配されていると回答した。
- ・信用できる政治家としては、ドドン大統領と答えたのが24%（キシニョフでは19%）、サンドゥ前首相24%（同32%）、ナスターセDA党首13%（同16%）、グレチャヌ議会議長10%（同9%）、フィリップ元首相7%（同3%）。
- ・議会選挙があった場合いずれの政党に投票するかとの問いに対しては、社会党との答えが29%、PAS24%、民主党10%、ショール党4%、DA3%、我らの党3%、共産党3%。未定との答えは15%。
- ・最も重要な経済パートナーについては、EUとの答えが63%、ロシア56%、ルーマニア41%、米24%、ウクライナ18%。最も重要な政治パートナーについては、EUとの答えが55%、ロシア48%、ルーマニア36%、米21%、ウクライナ15%。

▼モルドバ汚職指数、世界第120位

・23日、Transparency Internationalの2019年汚職指数において、モルドバは世界120位であることが明らかとなった。2018年は117位であった。

2. 外交

▼チェバン・キシニョフ市長、モスクワを訪問

・16日、チェバン・キシニョフ市長は、訪問中のモスクワにおいてモスクワ市のケロミン国際経済関係部長と会談し、両市の姉妹都市関係についてレビューを行った。モスクワ市から除雪車両やその他の必要機材が提供されることが発表された。

▼欧州評議会、モルドバの裁判官を評価

・20日～21日、裁判官の評価を目的とする欧州評議会専門家グループがモルドバを訪問し、キク首相やナガチエブスキ法務相らと会談した。キク首相は、EUの専門家

5名と議会の代表5名によって構成される特別委員会が、評価委員会メンバーを選出し（裁判官6名、市民社会代表3名によって構成される）、同委員会が裁判官の業務をモニターすることになると説明した。

・22日、専門家グループの訪問を受け、ペイチ・ノビッチ・ブリッチ欧州評議会事務局長はモルドバの司法改革に関する声明を発表した。ペイチ・ノビッチ・ブリッチ事務局長は、求められる変化を実現するには明確な戦略的コンセプトが必要である旨強調しつつ、全ての関係者の積極的な支援を得て欧州評議会メンバーとしての義務を果たすべきであるとした。

▼ドドン大統領、イスラエルを訪問

・23日、ドドン大統領は、イスラエルで行われたホロコースト記念グローバル・フォーラムに参加した。

▼チェバン市長、サンクトペテルブルクを訪問

・28日、チェバン・キシニョフ市長は、訪問先のサンクトペテルブルクにおいてベグロフ同市長と会談した。両者は様々な分野の協力に関する覚書に署名した。

▼ドドン大統領、欧州評議会議員会議に出席

・29日、ドドン大統領は、欧州評議会議員会議に出席するためストラスブールを訪問した。ドドン大統領は、同会議において、モルドバ・ルーマニア関係は何ら問題ないが、統合主義については看過できないとし国家を破壊するいかなる試みについても反対すると述べた。フランスの議員からモルドバ・EU関係について質問を受けたのに対し、ドドン大統領は、ブリュッセルからの緊張は和らいていると感じている旨述べつつ、大統領も社会党もEUとの連合協定には何ら反対しておらず政府もその履行に努めている旨述べた。トランスニストリア問題については、5+2協議の枠組みにおけるベルリン・プラス・パッケージの進捗をモルドバは支持している旨述べた。

▼キク首相、カザフスタンを訪問

30日、キク首相は、EEUデジタルフォーラムに参加するためカザフスタンを訪問した。マミン・カザフスタン首相と会談したキク首相は、今回の訪問を契機にカザフスタン及びEEUとモルドバとの協力が進むことへの期待を表明した。会合のマージンにてルマス・ベラルーシ首相、アブィルガジエフ・キルギス首相、パシニャン・アルメニア首相、ミシュスティン露首相らと会談した。

▼ブレグジット後のモルドバ・英国関係

・31日、ブレグジット後の対応に関し、フィッシャー駐モルドバ英国大使は、モルドバと英国は2020年末までに連合協定と同様の二国間協定を締結することを計画している旨述べた。同大使は、現在英国にはルーマニア国籍を持つモルドバ人約7万人が居住しているが、2021年6月までは彼らの滞在資格等について大きな変更は見込まれない旨述べた。

3. 経済

▼燃料費の上昇

・17日、一部のガソリンスタンドではガソリンとディーゼル燃料のコストが3～4%（1リットルあたり0.4～0.6レイ）増、液化ガスが12%（1リットルあたり1.2レイ）増になった。2020年から石油製品に対する物品税が10%増加したことに加え、燃料の購入価格が上昇したため。

▼キシニョフのミニバス運送業者、運賃値上げを要求

・17日、キシニョフ市内のミニバス運送業者は、キシニョフ市議会に対し、現行3レイから10レイへのミニバス運賃の値上げを要求した。現在、ミニバス業者は赤字経営が続き、また、十分なドライバーも確保されておらず、車両の買い換え費用も十分ではない。過去5年間、ミニバスは1950台から780台に減少している。

▼医療関係者の給与の引上げ

・22日、政府は、医療スタッフ（医師、看護師）、行政官及び公立医療機関管理者4万9千人の給与を本年4月から10%引き上げることを選定した。

▼国内道路整備計画の進捗状況

・24日、ウサトゥイ経済インフラ相は、政府が60億レイ（3.43億ドル）に及ぶ大規模道路修復事業（350km）を計画していると述べた。これらの事業は、ロシアから5億ドル資金調達され、35億レイ（2億ドル）は既に公示済み、2月末までに25億レイ（1.43億ドル）の入札が発表される予定。

▼キク首相、EDB参加への関心を表明

・20日、キク首相は、ユーラシア開発銀行（EDB）イベリヤニノフ頭取と会談し、モルドバが同銀行メンバーとなることへの関心を表明した。

・両者は、モルドバの農産品購入と加工のための農産業ハブ建設のプロジェクトについて議論した。同ハブ建設により、農家と小売業者との結びつきが強化される。プロジェクト費用は最大50百万ドルが見込まれている。

4. 各種統計

▼2019年のワイン輸出

・16日、国家葡萄酒事務所は、2019年のワイン輸出が、146百万リットル、20億レイ（1.14億ドル）となったと発表した（前年比9.4%増）。ブランデー輸出は、4.6百万リットル、600百万レイ（34.29百万ドル）となった（前年比8%増）。主な輸出先は、ウクライナ、ドイツ、イタリア、

カザフスタン、カナダ、米国。

▼2019年12月の工業生産価格

・20日、国家統計局は、2019年12月の工業生産者価格が対前月比0.2%増、対前年比2.6%増になったと報告。

▼2019年の民間銀行総資産

・21日、国立銀行は、2019年12月末、モルドバの11の商業銀行の財務状況に関する情報を公開した。

・銀行の総資産は906億レイ（51.77億ドル）、対前年比75億レイ（4.29億ドル）、9%増。

・上位3行は、モルドバ農業銀行（28.6%）、モルディンコンバンク（20.3%）、ビクトリアバンク（16.2%）。

▼2019年の公的債務額

・22日、財務省は、2019年12月末の公的債務総額が、年初より478百万レイ（27.31百万ドル、0.9%）増加し、525億レイ（30億ドル）に達したと発表した。

・増加内訳は、対外債務が368百万レイ（21.03百万ドル）増の293億レイ（16.74億ドル）。主な借入れ先は、IDA36.2%、IMF16.3%、EIB16.3%、世銀5.8%、EBRD4.5%、IFAD4%。

・国内債務は、109.6百万レイ（6.26百万ドル、0.5%）増の232億レイ（13.26億ドル）。

▼2019年の税収6%増加

・27日、国税局は、2019年に対前年比6%の税収増（約22.4億ドル）があったと発表した。

▼2019年決算

・31日、2019年の国家歳入は399億レイ（22.8億ドル）、予算策定当初から1.7%減、対前年比9.7%となったことが明らかとなった。

・歳出は430億レイ（24.6億ドル）、予算策定当初から7.1%減、対前年比11.3%増。

・2019年末の財政赤字31億レイ（1.77億ドル）、予算策定当初から45.6%減、対前年比36%増。

5. 対日関係

▼日本芸術・文化祭の開催

・16日、国立美術館において、日本芸術・文化祭のオープニング式典が開催された。同式典には、好井大使のほか、ポポビッチ教育・文化大臣、バブク議会副議長、ズブルネア美術館長らが参加した。同芸術・文化祭では、国立美術館が所蔵する浮世絵の展覧会や着物ショー、日本映画祭が行われた。

▼好井大使に栄誉勲章を授与

・20日、ドドン大統領は離任挨拶に訪れた好井大使と会談した。好井大使による二国間の友好・協力関係発展への貢献を評価するとして、「栄誉勲章」がドドン大統領より伝達された。

（了）